

てしかがが歴史写真館 106



陶製の湯たんぼ

冬の夜、暖かい布団に入り込むとき、何とも幸せな気持ちになります。その布団を温める道具の中で、今でも湯たんぼが活躍します。

太平洋戦争も末期のころ、日本は国民の生活に欠かせない石油はおろか、食糧も確保が難しくなりました。兵器を作るための資源の確保もできなくなり、日本軍は家庭や地域にある金属と思われる物、鍋、やかんから、火の見櫓(やぐら)の半鐘(はんしょう)のはてまで拠出を命令します。

この時期、金属製に代わるいろいろな生活用品が作られます。陶製の湯たんぼもその一つです。

陶製の湯たんぼが手に入らない人々は、手ごろな大きさと、熱しても割れてはじけない石を川原から採って、ストーブなどの余熱で温め、布に包んで利用しました。

温まった布団の中で、凍(しば)れる家の外と罔じく、わずかな幸せも奪い取る時代が早く終わり、平和な春が来るのを願ったことでしょう。

てしかがが郷土研究会(松橋)



「気持ちも新たに大人の仲間入り」

1月10日に行われた、成人式での一コマです。新成人を代表して、常陸勇馬さん(左)と西塚絢音さんが「誓いのことば」を読み上げました。

関連記事 4 ページ

◇主な内容

- 確定申告は正しく早めにしましょう…②
- 第62回弟子屈町成人式……………④
- 第56号町議会だより第4回定例会…⑥
- 後期高齢者医療制度……………⑱
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設…⑳

てしかがが

広報



摩周湖と いて湯のロマン 弟子屈町

2010.2
No.666